

令和7年度第4回大和市環境審議会 議事録

I. 開催日時 令和8年1月20日(火) 午後2時00分から午後3時10分まで

II. 開催場所 大和市役所会議室棟 1階 101, 102会議室

III. 出席状況 委員：8人

中田 朝夫委員(会長)、箱崎 陽一委員(職務代理)、高野 安弘委員、大川 沙耶香委員、壺井 里英委員、矢板 千英子委員、片倉 忠雄委員、古谷田 和子委員

欠席：板橋 雅美委員、鈴木 澄子委員、橋本 幸生委員、濱田 和博委員

事務局：環境共生部長ほか7名

IV. 傍聴人 0人

V. 公開・非公開の状況

■公開 □非公開 □一部非公開

VI. 審議又は検討の経過及び結果

●会議次第

1 開会

2 交代委員紹介及び職務代理選出

3 議題

・大和市一般廃棄物処理基本計画の改定について【答申審議】

4 その他

・令和7年度大和市環境美化ポスターコンクール入選作品について

・国際的な環境非営利団体CDPが選ぶ「2025年CDPシティーズAリスト」に大和
市が選出されたことについて

●審議内容など

大和市一般廃棄物処理基本計画の改定について、所管課が説明を行った後、各委員からの意見・質疑に回答した。

(※資料等は複数ページに渡るため掲載しておりませんが、市役所環境総務課で閲覧できますので事前に連絡のうえお越しく下さい。)

次第3 議題

・大和市一般廃棄物処理基本計画の改定について【答申審議】

- 委員 P.17の変更点。図3-1-8について。令和6年度分が追加され、説明文に「令和4年度から厨芥類が増えている」とあるが、令和6年度は減っている。
- 事務局 家庭から出る生ごみの割合を指すため、令和5年度から令和6年度は減少している。
- 委員 文言的にどうなのか。ずっと増えていると捉えられてしまわないか。
- 事務局 図と説明文が異なるため、令和4年度から増えているが、令和5年度から令和6年度は減少という文章に変更する。
- 委員 P.12の資源化について、元の「めぐるまちやまと一般廃棄物処理基本計画（案）」P.62にリサイクル率の目標値があるが、ここについては焼却灰資源化量が入っているが、そのままよいのか。
- 事務局 数値については、第3回審議会から同じ考えでやっており、第3回審議会から目標数値や現状値は変わっていない。変更した内容は、ごみ処理フローの中で一番最後にある総資源化量に行くまでの経過についてであり、今まで大和市の統計資料を見てきた方の疑問にならないように、例えば、自治会が取り組んでいる資源回収の明細を送った際に、量が違うというふうにならないよう、発生した量と実際に資源化できた量を併記したというのが、今回の考え方である。
- 委員 P.12の図を変えたことにより、P.62の記載より前に焼却灰資源化量がなくなっていることを懸念した。他のところで記載があるのか。
- 事務局 焼却灰資源化量は、焼却灰引渡し量から、さらに実際に溶融スラグになった量になる。
- 委員 それはこの計画の中で完結して分かるのか。
- 事務局 巻末の将来推計表で資源化量（焼却残さ由来を除く）があり、合わせて資源化総量というのがあり、この引き算が焼却灰資源化量にあたる。確かに、計画P.12のフロー図中では出てこない。白色トレイ、新聞紙や段ボールなどと合わせて資源化引き渡し量となっているため、溶融スラグの量だけでは出てこない。
- 委員 市民の方が良ければいい。私は行政の人間なので異なることは分かるが、一般の方が見ると、同じとってしまうのではないかと思う。
- 事務局 今までは統計資料の中で、引き渡し量の全てをリサイクル率に算定し、引渡し量と資源化量が同じという形でやっていた。しかし、現在の国の考え方では、実際にできた資源の量で計算するという形となった。
- 委員 P.62のリサイクル率の目標値の計算式については、資源化総量の式の中は焼却灰資源化量でよいのか。
- 事務局 これは国の考え方に則り、実際に資源化できた溶融スラグの量である。
- 委員 では同じではないということでしょうか。
- 事務局 そうである。資源化引渡し量は、溶融スラグになる前の水分や凝固剤を含んだ資源

化前の値、それは焼却灰の量と実際に埋め立てた量と埋めてない焼却灰全体の量を表すために引き渡し量と表現している。

委員 この説明というか、資源化量は同じになってしまう。前の案では、資源化量として熔融スラグの量を記載していたので、そこが違うので気になった。

委員 国の流れに従って、フローを書き直したということか。

事務局 そうである。国の統計には、引渡し量はない。国は、ごみから循環する資源としてどれだけ生まれ変わったのかについて報告を求めており、それだけを資源化量として認めるのが国の計算方法である。

委員 図の右下の数値か。

事務局 そうである。焼却灰由来のものと、資源回収から得られて最終的に資源になった量の総量である。

委員 その前の 17,430 t は、水分等を含んだ量なのか。

事務局 水分や凝固剤を含んだ量である。

委員 流れとしては詳しくなっているということか。

事務局 そうである。

委員 重要なのは、15,585.197 t ということか。

事務局 そうである。

委員 改正案は概ね適正と思われるが、いかがか。

「委員一同」 異議なし。

[答申案について]

委員 長期計画の改定についてというところで、二つ目の説明会の開催について違和感がある。答申の中の次期施設整備計画の部分と思うが、当然説明会はやると思うが、特化して記載する必要があるのか。皆さまが違和感がないのであればよいが、計画となったときの答申として違和感がある。

事務局 処理施設の更新を行うならば、説明会を行うのは当然。これを謳うことにより、委員の皆さまから必ず行ってほしいという意見を残すことで、約束という形になるので、行政としては義務として考えているが、約束という形で捉えていただければ。

委員 承知した。

委員 前回の審議会で意見があり、説明があったが、ごみ処理施設について、自治体単体ではなく広域でという考え方があったが、従来とやり方が変わるのもあるので、そういう意味合いも含めて説明会について書かれたと解釈した。

委員 よくできていると思う。

委員 前回の審議の内容をよく踏まえている印象。1点目、めぐるまちやまるとに則りとあるが、その議論の中で小学校就学前の子どもたちに出前授業を行ったということ。印象に残ったのが 10 年計画の中で幼児や児童も大人になり世帯をもっているかも

しれない。そういう長いスパンの中で、ごみの減量化や食品ロスを考えるきっかけにしてほしいという意味を込めた。3点目は、敢えて数値目標をかかげなかったのはなぜかという質問の回答の中で、大和市は以前からごみ処理に取り込んできたので、数値目標で縛るのではなく、子どもからお年寄りまでみんなで接続の可能性を考えて取り組んでいきたいとあった。それぞれの柱建てがしっかりしていると思った。

委員 事務局案でよいか。

《委員一同》 異議なし。

次第4 その他

・令和7年度大和市環境美化ポスターコンクール入選作品について

委員 入選作品は、どこに掲示されているのか。

事務局 市役所の自動販売機等に掲示されている。

委員 非常にイラストもワンポイントでよくできている。それぞれがキーワードで完璧に示している。非常に学校の教育がいいのだなと感心している。

委員 ポスターを描くだけでなく、そこに至るまでに総合学習の時間や生活科の時間、社会科の時間では大和市のごみ処理について、子どもたちが非常に環境について学ぶ機会があった。その前提の中で、日頃感じていること表現している。学ぶだけではなく、自分から発信することはとても良い学習だと思う。今後もぜひこういう機会を与えて欲しいと思う。

委員 関心を盛り上げ、注意喚起という意味も込めて、非常によい啓発であると思った。

・国際的な環境非営利団体CDPが選ぶ「2025年CDPシティーズAリスト」に大和市が選出されたことについて

委員 まず、市民の方が本当に素晴らしいということ。市民がやっていることをエントリーということで大和市がチャレンジしている。非常に素晴らしいことだと思う。広く市民の皆さんに知ってもらい誇りに感じて欲しい。

委員 広報は考えているのか。

事務局 広報の担当課と調整し、何らかの形で発信したい。

委員 いろいろな方々の努力、事務局の発信。質問書やいろいろな項目、ジャンルでの説明も大変な作業だったと思う。いろいろな方々の継続的な努力に敬意を表したい。

委員 中学校で技術や社会の授業があるが、課題が脱炭素社会に向けたエネルギーの再生利用、太陽光について子どもたちに問いかける。今後の社会に非常に貢献するのだ

と、学校教育との連携もこれからの子どもたちに、その意識を向上させていく、大和市の施策が賞を受けたことは大きな励みなので大いにPRしていただきたい。

《閉会》